

基礎病理技術学 正誤表

項及び行	誤	正																												
P4 ①浸漬固定 7行目	不必要に厚く切り出すと深部の方は固定液が、浸透、作用せず、未固定の状態となり、浸漬した時間の分自己融解がおこる（図1）。可能な限り厚さは5 mm以下にする。	不必要に厚く切り出すと深部の方は固定液が、浸透、作用せず、未固定の状態となり、浸漬した時間の分自己融解がおこる。日常検査では、可能な限り厚さは、ホルマリン固定の場合5 mm以下にする。（図1：電顕用固定液ではマウス肝臓のトリイジン青染色で3 mm ² 厚でも浸透に影響が出ている。）																												
P7 ②材料の大きさ9行目	HE染色では、皮質顆粒細胞が脱落しているのが解る（図5 b）。	HE染色では、皮質顆粒細胞が脱落、変性に伴う染色性の低下が判る（図5 b）。																												
P11 2行目	切り出しも容易い。	切り出しも容易。																												
P21 左段最終行	じむ。脂肪腺分の残存した部位、及び脂肪成分の溶	じむ。脂肪成分の残存した部位、及び脂肪成分の溶																												
P66 注3）下段の表	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">pH</th><th colspan="2">酸性ムコ多糖</th></tr> <tr> <th>ヒアルロン酸</th><th>コンドロイチン硫酸など</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2.5</td><td>+</td><td>+</td></tr> <tr> <td>4.1</td><td>+</td><td>+</td></tr> <tr> <td>7.0</td><td>-</td><td>+</td></tr> </tbody> </table>	pH	酸性ムコ多糖		ヒアルロン酸	コンドロイチン硫酸など	2.5	+	+	4.1	+	+	7.0	-	+	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">pH</th><th colspan="2">酸性ムコ多糖</th></tr> <tr> <th>ヒアルロン酸</th><th>コンドロイチン硫酸など</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2.5</td><td>-</td><td>+</td></tr> <tr> <td>4.1</td><td>+</td><td>+</td></tr> <tr> <td>7.0</td><td>+</td><td>+</td></tr> </tbody> </table> pH2.5の溶液では、ヒアルロン酸はメタクロマジーを起さない。	pH	酸性ムコ多糖		ヒアルロン酸	コンドロイチン硫酸など	2.5	-	+	4.1	+	+	7.0	+	+
pH	酸性ムコ多糖																													
	ヒアルロン酸	コンドロイチン硫酸など																												
2.5	+	+																												
4.1	+	+																												
7.0	-	+																												
pH	酸性ムコ多糖																													
	ヒアルロン酸	コンドロイチン硫酸など																												
2.5	-	+																												
4.1	+	+																												
7.0	+	+																												
P187 図1表の1行目	左列：TEM、右列：光学顕微鏡	左列：光学顕微鏡、右列：TEM																												
P198 8行目から	呼吸器系は大きく、気道と肺から構成される。気道とは、鼻腔、咽頭、喉頭、気管及び気管支といった空気を導く部分であり、肺は、空気と血液との間のガス交換に直接携わる。	呼吸器系は大きく、気道と肺胞から構成される。気道とは、鼻腔、咽頭、喉頭、気管及び気管支といった空気を導く部分であり、肺胞は、空気と血液との間のガス交換に直接携わる。																												

P200 ②肺	肺は、左右の胸腔にあり、左は上下2葉に、 左 は上、中、下の3葉に分かれている。	肺は、左右の胸腔にあり、左は上下2葉に、 右 は上、中、下の3葉に分かれている。
P202 ① 肝臓 肉眼像	肝臓は横隔膜に接して右上腹部を占める赤褐色の大きな臓器で、 右葉と左葉 からなる。	肝臓は横隔膜に接して右上腹部を占める赤褐色の大きな臓器で、 右葉、左葉、方形葉、尾状葉 からなる。
P207 右段 7 行目	G 細胞 は ガスとリン を産生する細胞で、島の1%を占める。島全体にまばらに分布する。	削除
P210 左段 12 行目	C. 位尿細管	C. 遠位尿細管
P220 図 11 の説明文書の最終行	上：脊髄 右 LFB&HE 染色ルーペ像	削除
P230 左段 2 行目 挿入	ソマトスタチンを分泌する(図)5。インスリン	ソマトスタチンを分泌する(図)5。 PP 細胞 は、 膵ポリペプチド を産生している細胞で膵島の 辺縁に多く分布し、細胞の1%を占めている 。インスリン
P236 図 10 心臓 (AM)	→の 大動脈弁	→の 僧帽弁
P236 図 11 心臓 (AM)	→の 肺動脈弁	→の 三尖弁
P253 右段 3 行目	スミスチーズ 用 変性と呼ばれる。	スミスチーズ 様 変性と呼ばれる。